

JAEF REPORT

平成28年4月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 第11回理事会を開催、平成28年度事業計画・予算を承認
- ◆ 平成27年度感謝状派遣件数・人数とも過去最多を更新
- ◆ 平成28年度講師派遣募集開始

- ◆ 平成28年度自動車教育用教材の公募予定
- ◆ 平成27年度自動車教育用教材活用結果
- ◆ 高校生意識調査を実施

第11回理事会を開催、平成28年度事業計画・予算を承認

・・・3月14日

財団運営

財団は、3月14日に芝パークホテルにて第11回理事会を開催した。同理事会では平成27年度の事業進捗状況が報告されると共に、平成28年度の事業計画・収支予算案が承認された。これを踏まえ、財団は平成28年度も社会と自動車のより良い関係を形成すべく、高等学校における自動車及び交通に関する教育支援に取り組む所存である。

まず技術教育支援事業では、東北（一部）・甲信越・四国・九州・沖縄の18県278校を対象に自動車技術教育用教材の公募を行い、前回実績を上回る100校を対象に教材を提供する計画である。自動車教育推進協議会と共催して全対象県で開催した昨年度の教材贈呈式・教育懇談会では、教育関係者から機材提供に対する感謝の言葉と、継続支援を要望する声が多く寄せられており、その期待に応えるべく取り組む所存である。ちなみに平成4年からの提供校累計は1,629校となった。また、担当教諭の技術知識や指導力向上支援の一環として、提供教材の取扱指導や指導用補助教材の提供等も継続実施する予定である。

調査研究事業では、昨年に続きクルマや交通への関心度向上策を探るべく、海外調査を2回、国内調査を3回実施する計画である。海外調査としては、先生方の関心の高い自動運転に関する欧州の先行事例（バスなどの公共交通への導入実態）等を調査する。また国内調査としては、自動運転の今後の可能性や自転車運転マナーの変化、更には地域活性化・高齢化社会対応として注目される超小型モビリティに関して調査を行う計画である。これらの調査結果に基づき、調査報告書や広報誌掲載用の特集記事とコラム記事も合わせて作成する。また、自動車や交通社会に対する理解・関心を高めるべく、地理や現代社会、政治経済等の授業向けの新副教材『クルマを通じて社会を考える』を中心として、各種副教材の提供と授業での活用促進を図っていく。

研修事業では、参加した先生方から高い評価をいただいた昨年のJAEF研修会（先生方対象の財団主催の研修会）の実績を踏まえ、28年度は「次世代自動車（EV、水素）の最新動向」、「自動運転車開発の現状



▲第11回理事会の様子

と展望」、「通学時の交通安全」等をテーマとした講演と、工場見学、サーキットでの安全運転実習等の体験等を組み合わせ、4回（首都圏2回、愛知1回、広島1回）開催予定である。また、講師派遣活動（県教育委員会や高校主催の研修会への支援）においては、過去最多の派遣件数・参加人員となった昨年度の実績（派遣件数258件、受講者約99,386名）を踏まえ、15種類の講師派遣メニュー（クルマの整備技術・最新技術に関する8メニューと環境・交通・交通安全に関する7メニュー）を全高校（約5,900校）へ案内し、昨年度を若干上回る講師派遣の実施を計画している。

普及啓発事業では、高校教諭を対象とした広報誌『Traffi-Cation（トラフィックーション）』を3回発行し、高等学校における自動車教育に対する理解促進と財団活動に対する認知向上に努める。さらに、ホームページ、ニュースリリース、定期報告書等の多様なメディア展開を継続し、教育関係者に対して自動車教育並びに財団活動に関するタイムリーな情報発信を行う。

財団は、教育関係者や関係団体の皆様からの反響・要望等も踏まえて事業活動を適宜見直しと共に、高校における自動車教育を更に前進させるべく、平成28年度の事業に取り組む所存である。つきましては、引き続き関係団体・企業の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

INFORMATION

4～6月予定

- 理事会、評議員会を開催 5月～6月
- 平成28年度JAEF研修会参加者募集開始 6月上旬
- 平成28年度自動車技術教育用教材提供の公募開始 6月上旬
- 平成28年度講師派遣を実施 4月～6月

平成27年度講師派遣：件数・人数とも過去最多を更新

研修

財団は、平成27年度に各県の教育委員会や教育研究会、高等学校などの要請を受け、45都道府県で258件（26年度：243件、以下（ ）内は26年度の実績）の研修会への講師派遣を実施した。その結果、27年度の研修会への参加者合計は99,386名（92,725名）に上り、派遣件数・参加者数共に過去最多となった。

これら258件の研修会の内訳を見ると、社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒を対象とした一般研修会が236件で、前年（219件）より17件上回った。研修メニュー別実績では、派遣の全てが「交通安全」に関するメニューで、「危険予知による交通安全」が108件、「自転車や歩行者を中心とする夜間の交通安全対策」が47件、「自転車と交通安全について」が31件「クルマ・自転車・人がつくる道路交通と安全」が25件、「交通事故とその責任」が25件であった。

一方、主に工業系の先生方を対象とした自動車の技術研修会は22件で、前年（24件）を2件下回った。研修メニュー別実績では、「整備技術」に関するメニューが2件（2件）、「最新技術」に関するメニューが20件（22件）であった。なお、「最新技術」の内訳は「ハイブリッド車」関係が9件、「電気自動車」が4件、「SKYACTIVエンジン」が3件、「プラグインハイブリッド」が2件、「燃料電池自動車」が1件、その他1件となっている。

開催評価については、「大変良い」「良い」の合計が95%であり前年同様、大変高い評価をいただくことができた。

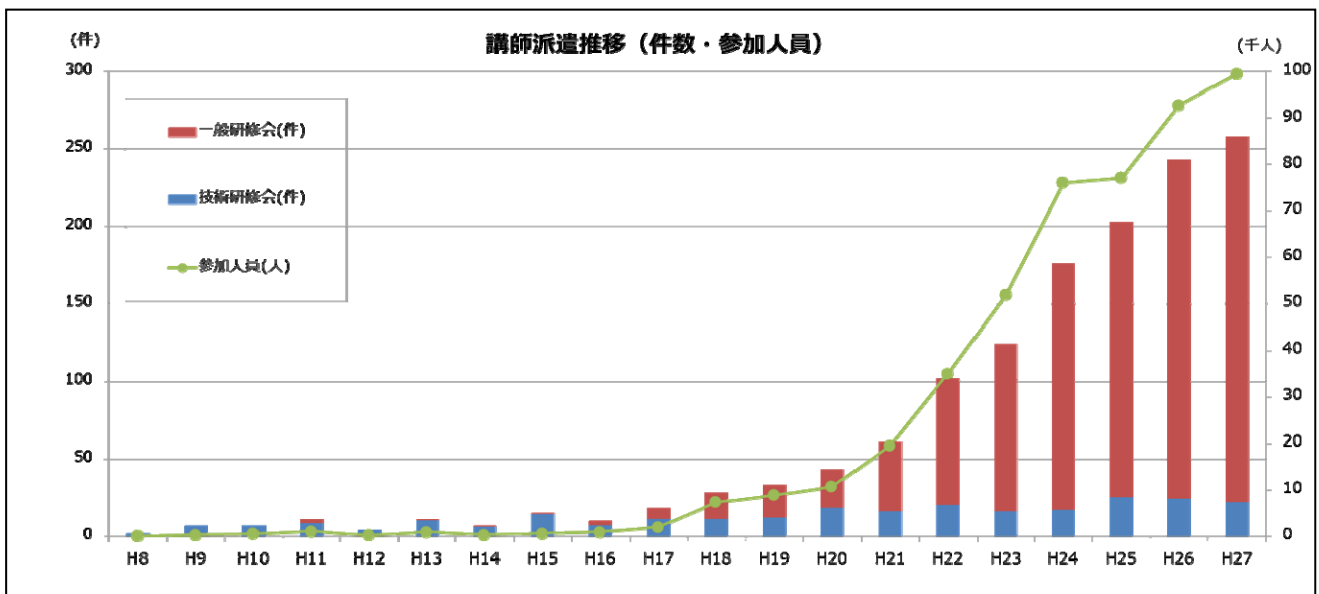
講師については、258件のうち、252件を地元の推進協議会メンバーに担当いただいた。講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。



▲宮城県松山高等学校での講師派遣の様子



▲鳥取県境港総合技術高等学校での講師派遣の様子



	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
技術研修会(件)	2	7	7	8	4	10	6	14	7	11	11	12	18	16	20	16	17	25	24	22
一般研修会(件)	0	0	0	3	0	1	1	1	3	7	17	21	25	45	82	108	159	178	203	236
研修会合計(件)	2	7	7	11	4	11	7	15	10	18	28	33	43	61	102	124	176	203	243	258
参加人員(人)	41	289	460	1,030	200	850	241	568	861	1,970	7,298	8,868	10,636	19,429	34,875	51,897	76,002	77,058	92,725	99,386

平成28年度講師派遣募集開始

・・・2月～

研修

財団は、平成28年度の講師派遣支援の申込要領を、2月22日付で全国の高校（約5,900校）へFAXで案内すると共に、教育関係団体（都道府県・指定都市・中核市の教育委員会、全国高等学校長協会、全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国公民科・社会科教育研究会、全国自動車教育研究会）に送付した。また一般研修会はホームページから直接申し込めるようにした。

講師派遣の対象は、各地の学校、教育委員会、教育研究会などが開催する研修会で、①自動車の「整備技術」「最新技術」に関する技術研修会、②「環境」「交通」「交通安全」に関する一般研修会である。

【28年度・派遣メニュー一覧表】

平成28年度の講師派遣研修メニュー（詳細は下表をご参照方）は、技術動向や受講者の反響を踏まえ、「交通」の⑩と「交通安全」の⑫⑬⑮のメニュー名や一部内容を変更した。また、講師派遣の申込期限は、派遣メニューの①～⑧を12月9日（金）、⑨⑩を9月末とし、⑪～⑮のメニューは常時受付としている。

なお、派遣目標は前年を上回る派遣件数275件、受講者合計101,000名を予定している（前年実績は258件、99,386名）。関係団体・企業の皆様には、これまで以上に派遣をお願いすることが多くなると思われませんが、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

区分	講師派遣研修メニュー	研修内容	派遣対象	講師派遣元	
技術研修会	整備技術	① ガソリンエンジンの分解・組立	講演と実習(5～6時間)	研修会(教員)、学校(教員)	日本自動車整備振興会連合会
		② トランスミッションの分解・組立	〃	〃	〃
		③ 電子制御エンジンの構造と点検・整備	〃	〃	〃
	最新技術	④ トヨタ・ハイブリッド車について	講演(90分～120分)	研修会(教員)、学校(教員・生徒)	トヨタ系販売会社
		⑤ 日産・電気自動車について	〃	〃	日産系販売会社
		⑥ ホンダ・ハイブリッド車について	〃	〃	ホンダ系販売会社
		⑦ マツダ・SKYACTIVエンジンについて	〃	〃	マツダ(株)
		⑧ 三菱・プラグインハイブリッド車について	〃	〃	三菱自動車工業(株)
一般研修会	環境	⑨ 地球温暖化防止と自動車技術	講演(90分～120分)	研修会(教員)	自動車メーカー、他
	交通	⑩ 次世代の自動車・交通技術と社会のあり方	講演(90分～120分)	〃	自動車メーカー、他
	交通安全	⑪ 危険予知による交通安全	講演(50分～60分)	研修会(教員)、学校(教員・生徒)	(一社)日本自動車連盟
		⑫ 自転車・歩行者から見た道路交通と安全	〃	〃	〃
		⑬ 夜間の交通安全対策	〃	〃	〃
		⑭ 交通事故とその責任	〃	〃	(一社)日本損害保険協会
		⑮ 自転車を取り巻くリスクとその責任	〃	〃	〃

平成28年度自動車教育用教材の公募予定

・・・5月～6月

技術教育

財団では、自動車に関する技術教育支援のため、全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、全国自動車教育研究会に加盟している高等学校を対象に公募を行い、広く実験実習用教材や自動車技術教材を無料で提供している。

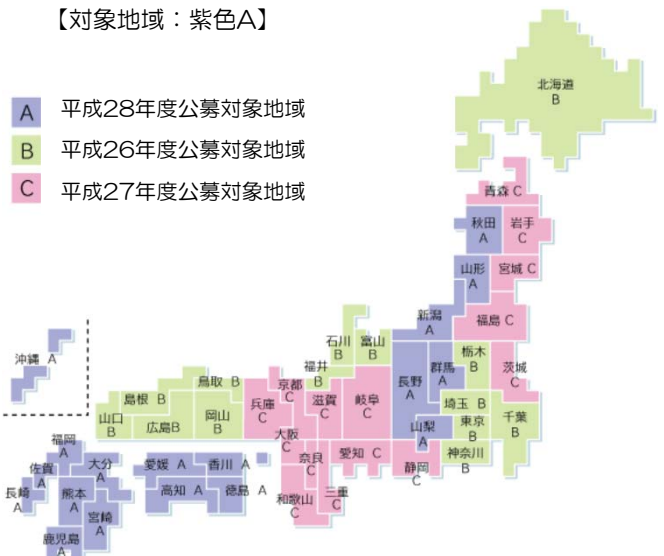
教育用教材は、視聴覚教材としてDVDや動く掛図など、初級教材として分解組立用エンジンや工具類、さらに中級教材としてトランスミッション、電装品（灯火器）シュミレーターボードなど、また上級教材として実車、エンジン実習装置、スキャンツールの実験実習用教材を用意し、学校からの応募内容を審査選考して提供している。

全国を3地域に分け、毎年14～18都道府県を対象となる高等学校へ、応募の案内を実施している。平成28年度は右図A地域の18県に対して、下記日程で募集を行う予定となっている。

【日程】

5月下旬：募集要項案内
6月末：応募締切
8月上旬：教材提供校・提供教材決定
10月～2月：教材提供

【対象地域：紫色A】



【平成28年度公募対象（18県）】

秋田、山形、群馬、山梨、新潟、長野、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

平成27年度自動車教育用教材活用結果

・・・ 3月末

技術教育

財団は、学校に対するフォローアップ活動として、自動車技術教育用教材を提供した学校から、年度末に活用報告書を提出していただき、提供校での教材活用状況をまとめて今後の支援活動の参考としている。この度、平成26年度に教材を提供した87校に対して、平成27年度での教材活用状況に関する報告書を3月31日を締切期限として提出してもらった。

活用報告書から、提供教材が教育現場で「非常に役に立った・役に立った」、数量に関しては「適正である」との回答が大多数であり、有効な教材提供が行えていると判断できる。

例えば、視聴覚教材や分解組立実習用エンジン等は、「教科書での説明を聞くだけでなく、構造や動作を見ることで理解が深まった」「自動車の仕組みについて生徒達が興味・関心が持てるようになった」等、その教育効果は非常に高いと好評であった。具体的には、エンジンの作動原理を学ぶ動く掛図教材(写真上)や実際に分解組立ができる汎用エンジン(写真下)では、「実際に可動する教材を用いることで、生徒のエンジンの仕組みに対する理解度が向上した」と高く評価いただいている。

また、教材提供活動の継続への強い期待を述べた報告も多かった。財団は同報告書により、教育現場での提供教材活用状況を5月(予定)の技術教育部会に報告すると共に、自動車技術教育の一層の拡大につながるよう、技術教育支援事業の改善に取り組んでいく予定である。



▲千葉県立京葉工業高等学校での活用の様子



▲福井県立武生工業高等学校での活用の様子

高校生意識調査結果を報告

・・・ 2~3月

調査研究

財団では、高校生の関心事項や価値観、クルマに対する意識を把握すべく、2013年に初めてアンケート調査を実施した。その後の動向を把握するため、2015年11月に第2回目のアンケート調査を実施し、財団の各部会・委員会にて報告した。調査対象は、首都圏、京阪神圏、九州圏の高校生300名(各地域100名)である。

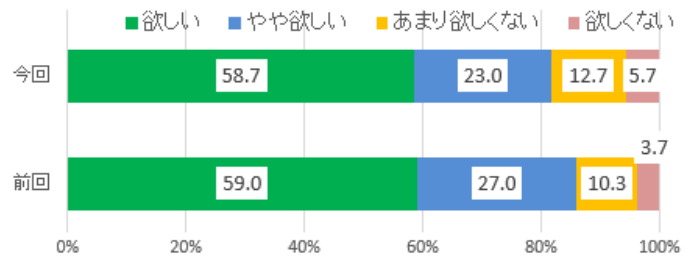
調査結果では、クルマ以外の関心事が増えて高校生のクルマに対する関心度が相対的に低い状況に変化はないものの、2年前よりはクルマに対する関心が持ち直している。特に首都圏や京阪神圏の男性でクルマへの関心度が前回より10ポイント以上の高まりをみせている。

こうした関心度の高まりにより、今回は「いつかはクルマの免許をとりたい」というあいまいな回答が多かったが、今回は「高校を卒業したらクルマの免許をとりたい」という回答が増え、免許取得がより現実味を帯びてきている。

その一方で、「将来クルマを欲しい」と回答した人は82%と、前回(86%)よりやや減少している。特に首都圏の男性でクルマの購入意向が低下している結果となった。その理由として挙げられたのが、「クルマを維持するには税金や駐車場などのお金がかかるから」が55%と最も多く、クルマへの関心はあるものの、経済的理由でクルマをあきらめている様子が見られる。

調査結果の詳細を知りたい方は、財団までお問い合わせください。

【クルマの所有意向】



【クルマを欲しいと思わない理由】

	今回	前回		
1	クルマを維持するには税金や駐車場などのお金がかかるから	54.5%	運転するのが怖いから	54.8%
2	クルマを購入するにはお金がかかるから	47.3%	クルマには興味がないから	50.0%
3	運転するのが怖いから	41.8%	クルマを維持するには税金や駐車場などのお金がかかるから	42.9%
4	クルマには興味がないから	29.1%	クルマを購入するにはお金がかかるから	40.5%
5	車以外のことにお金を使いたいから	25.5%	クルマを持つメリットが思いつかないから	31.0%